

インターネット オブ キッチン プラットフォームを 活用した厨房機器管理システム

北川 貴博 (きたがわ たかひろ) フクシマガリレイ株式会社 イノベーション開発室フードソリューション課 課長

要約 JEHC が運営する「インターネットオブキッチンプラットフォーム (IoK)」は、様々なメーカーが製造・販売する厨房機器の運転データを収集・蓄積・配信・共有する共通 IoT プラットフォームである。IoK は標準化された手順で厨房機器からデータを収集することができ、誰でもそのデータを使用することができる。フクシマガリレイ株式会社は、この IoK のデータを用いた業界初のシステムとして、厨房機器の温度管理を行えるサービス「HACCP ExAround 厨房まるっとプラン」をリリースした。

1. はじめに

日本エレクトロヒートセンター (以下 JEHC) が運営する「インターネットオブキッチンプラットフォーム」(以下 IoK) は、厨房機器メーカー、システムベンダー、食品事業者等、厨房機器に纏わるあらゆるステークホルダーの業務効率化や新たな価値創造を目的とした、「厨房機器の運転データの共有化基盤」である。

IoK は、これに対応するすべての厨房機器の運転データを蓄積・配信・共有することができる。厨房機器からは、「機器の温度データ」や「運転情報」が送信され、IoK がそれらを蓄積し、「マーケットプレイス」と呼ばれるシステム群がそのデータを利用して機

能開発・提供を行う、というスキームとなっている。

IoT 技術を利用して様々なデータを蓄積して利用するという取り組みは、現在ではもはや一般的なものとなった。IoK がそれに比して特筆すべき点はメーカーやベンダーの垣根を取り払ったオープンな取り組みだということである。中でもデータを利用する側の取り組みにおいては、ユーザー・メーカー・ベンダー等様々な立場の方が自由にこれを利用できるという特徴がある。読者の中にはデジタル・トランスフォーメーション (以下 DX) の取り組みを推進する・実行する立場の方もおられるかと思う。ぜひ本稿を参考に、「厨房機器のデータ」を自社の DX にどのように組み入れられるか検討していただければ幸いである。

本稿では、IoK を使ったシステム構築の手順の概略を示すとともに、実際にフクシマガリレイ株式会社が構築した業界初の IoK 対応システム「HACCP Ex Around 厨房まるっとプラン」の紹介を行う。

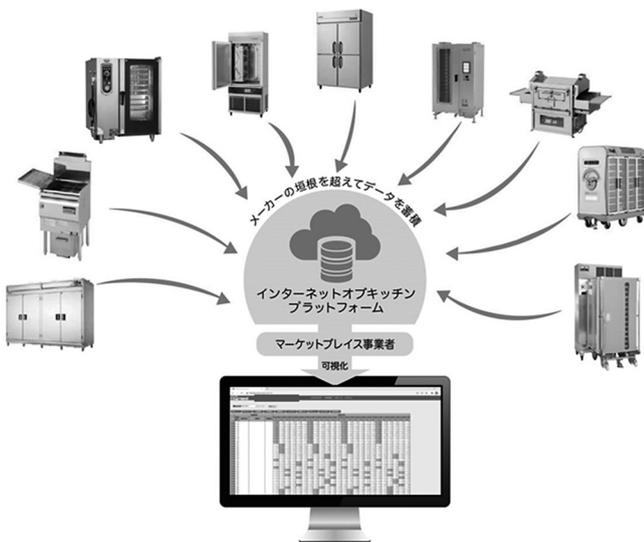


図 1 IoK の概念図

2. IoK とは何か、その仕組みについて

IoK は、JEHC を主体として運営するプラットフォームである。仕様等の意思決定については厨房機器メーカー・エネルギー会社・ソフトウェアメーカー等が参加する運営ワーキンググループが行っている。参加メーカーや接続可能な機器の種類については、JEHC が運営する Web サイト「電化厨房ドットコム」¹⁾にて紹介されている。

本項では、IoK が担う役割とそれを実現するための一連の仕組みについて解説する。